

画像解析活用し見守り

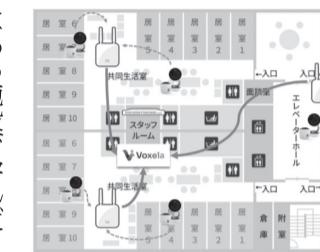
シリコンバレー発のAIで検知



ヴォクセラ
遠藤雄太社長

シリコンバレー発のテクノロジー企業で「見守りシステム」「Voxel」を取り扱うシスコシステムズ（同港区）とパートナーシップ契約を締結。AI画像解析技術を活用して介護現場で最適なケアを受けられる環境構築に注力している。遠藤雄太社長に話を聞いた。

◀ シスコシステムズのネットワーク技術を利用



— 展開するサービス

ティに配慮した形で介護スタッフに通知する見守りシステムです。昨年から事業展開していくなかで年末に介護記録システム「エヌ・システム・ケア」を開発するノースハンド（広島県府中町）と連携しました。先月にはシスコシステムズとのパートナーシップ契約を締結し同社のクラウ

ド管理型ネットワークを使用することで安定したインフラを構築しています。

— ヴォクセラ・ケアの強みは。

遠藤 最先端のAI技術を用いているため誤報率は1%を切っています。また、誤報の結果をAIが学習することで日に日に精度を上げています。将来的に

— A.I.画像解析で解決できることは。

遠藤 精度の高いアラートを出すことも重要ですが、いかに転倒の2回目・3回目を防げますかが特に大事だと考えています。バイタルサインでは正常だと判

転倒リスクを判断

断された人でも、年齢や性別などの要因によって同じ値でも身体状況に差が出ます。バイタルサインでは正常だけれども、転倒リスクなどの予兆が出てきた状態を判断するのは肉眼よりもAI技術の方が適していると考えています。

— 介護現場のDXについて。

遠藤 色々なサービスが出ていますが、どうしても現状だと一つひとつこのサービスが独立しておらず、介護事業者が送りで「転倒しました」と伝えるだけでは状況

が盛んになっていくなかで、本当の意味での世界共通語は英語ではない、いつ・どこで・誰が・何をしたかが誰でも分かる「映像」だと思います。申し

かで、本日の意味では世界共通語は英語ではあります。

今後海外人材の活用が盛んになっていくなかで、その難い

判断をAIが補助できます。

— 介護現場のDXについて。

遠藤 把握が難しいところも、動画を軸に判断す

ると分かりやすく、記録システムとの連携が大事になると考

えます。

— 今後の展望は。

遠藤 あくまで画像解析だけで全てを解決で

きるとは考えておらず、各社との連携が大

事だと思います。

— 展開するサービス

遠藤 ヴォクセラ・ケアは介護現場で発生する転倒、起床、徘徊などの事象をAI画像解析により検知し、三大职业セイユリ

远藤 高齢者住宅新聞

について。

遠藤 ヴォクセラ・ケアは介護現場で発生する転倒、起床、徘徊などの事象をAI画像解析により検知し、三大职业セイユリ

远藤 高齢者住宅新聞

について。

远藤 高齢者住宅新聞

について。</